

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ、褒められもせず、苦にもされず、そういうものに。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいい

といい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ、褒められもせず、苦にもされず。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ、褒められもせず。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ、褒められもせず。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ、褒められもせず、苦にもされず。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、

あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ、褒められもせず。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ、褒められもせず。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている、一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし分かり、そして忘れず、野原の松の林の陰の、小さな萱ぶきの小屋にいて、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人あれば、行ってこわがらなくてもいいといい、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はおろおろ歩き。